

東京都週報

46週(11月13日～11月19日)

発生動向総覧(東京都)・調査票通信
全数届出患者数一覧表
定点報告疾患集計(男女別)
年齢階級別累計表・保健所別累計表
感染症発生動向調査年次比較折れ線グラフ

事務局 東京都立衛生研究所疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

E-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス：www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



発生動向総覧 (東京都)

46週分

(全数情報)

細菌性赤痢 1件はフィリピンでの感染が推定されており、菌型はフレキシネルである。腸管出血性大腸菌感染症は2件届出された。いずれも有症者で、O157VT2だった。

アメーバ赤痢が3件届出された。1件は国内での同性間性的接触による感染が推定されている。2件は感染地域、経路ともに不明である。急性ウイルス性肝炎1件は、タイでの異性間性的接触によるものが推定されている。クロイツフェルト・ヤコブ病1件は孤発性で、臨床決定である。ジアルジア症1件は、国内での経口感染が推定されている。

ツツガムシ病が1件届出された。47歳男性で、刺し口、鼠径リンパ節腫脹、発熱、発疹があった。国内での感染が推定されており、島しょ地域から届出された。なお、昨年のツツガムシ病の届出は9件あったが、そのうち8件は島しょ地域からの届出だった。島しょ地域からの届出8件の届出月は11月2件、12月6件で、11月と12月に集中しており、今年も注意が必要である。

破傷風が1件届出された。77歳女性で、開口障害、頸部硬直があり、臨床決定された。国内での創傷による感染が推定されている。破傷風は、今年は現在までに7件届出された。性別では男性4件、女性3件で、年齢では40歳代1人、60歳代1人、70歳代4人、90歳代1人であり、比較的高齢者に多い。いずれも臨床決定で、感染経路は外傷3件、創傷1件、右大腿の擦過傷1件、不明2件である。

(推定される感染地域は、医師の届出によるものです。)

(定点情報)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎が増加傾向にある。マイコプラズマ肺炎、流行性耳下腺炎の報告数は減少したものの依然として高めである。

(病原体情報)

- ・新たに2病院から搬入された2例の劇症溶血性レンサ球菌感染症から検出されたA群溶血性レンサ球菌のT型は2株ともT1型であった。
- ・島しょで発生したツツガムシ病疑い患者の回復期血清においてリケッチア・ツツガムシに対する特異抗体の上昇が確認された。
- ・感染性髄膜炎患者の咽頭拭い液からアデノウイルス1型、出血性膀胱炎患者の尿からアデノウイルス3型が分離された。
- ・手足口病(2名)、ヘルパンギーナ(2名)および不明発疹患者計5名からコクサッキーA群9型、手足口病患者からエンテロ71型が分離された。

- ・ 1歳と10歳の胃腸炎患者のふん便からロタウイルス、4ヶ月の急性細気管支炎の患者の咽頭拭い液からRSウイルス、発疹、不明発疹、MCLSの患者計3名の咽頭拭い液からそれぞれHHV6型が検出されている。
- ・ ウイルス性胃腸炎の事例からSRSVが1件検出されている。
- ・ 急性咽頭炎と副鼻腔炎の患者の咽頭拭い液からそれぞれアデノウイルスの遺伝子が検出され、無菌性髄膜炎患者ではふん便と咽頭拭い液から、発疹・口内炎・上気道炎を併発している患者の咽頭拭い液および熱性けいれんを起こした中耳炎患者のふん便からそれぞれエンテロウイルスの遺伝子が検出されている。
- ・ 流行性耳下腺炎の患者の髄液からムンプス遺伝子が検出されている。
- ・ 多摩地区の感染性胃腸炎のふん便からサルモネラO7群(血清型トンプソン)とアデノウイルス遺伝子が検出された。

(その他の情報)

肺炎、細気管支炎などの検体搬入が増えている。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

練馬区

流行性耳下腺炎3歳男児、髄膜炎の合併にて入院。

中野区

麻疹の女児は予防接種をおこないましたが、その効果が出る前に感染しており発病しました。(発病してから同じ保育園に麻疹の患児がいたことがわかりました。)

品川区

インフルエンザ(?)と思われるのは、大田区の小学1年生。1クラス約30人中11人が発熱のため欠席した。患児は40の熱が4日間続き、つらさ以外症状はなく、アセトアミノフェンでの解熱効果はなかった。

全数届出患者数一覧表 平成12年46週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		43週	44週	45週	46週	46週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	コレラ					
	細菌性赤痢	3	2	2	1	11
	ジフテリア					
	腸チフス					1
	パラチフス					
三類	腸管出血性大腸菌感染症	13	3	3	2	62
四類 (全数届出)	アメーバ赤痢			1	3	3
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)			3	1	9
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病		1			1
	回歸熱					
	Q熱					1
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			2		
	後天性免疫不全症候群	6	6	10	10	7
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症				1	2
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病				1	24
	デング熱					
	日本紅斑熱					1
	日本脳炎					
	乳児ポツリヌス症					
	梅毒	1	2	5	5	7
	破傷風				1	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					
ブルセラ症						
発疹チフス						
マラリア	3		1		1	
ライム病						
レジオネラ症		1			1	
東京都分の集計は、医師からの追加届出により増加することがあります(11/22集計)						

定点報告疾病集計表（男女別）

疾病名	性	平成12年 週				累計
		43	44	45	46	
不明発疹症	男	7	6	4	6	23
	女	5	5	8	6	24
MCLS	男				1	1
	女	1	1			2
インフルエンザ	男	7	12	8	5	32
	女	2	5	6	3	16
咽頭結膜熱	男	4	1	3	2	10
	女	2	4	7	2	15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	36	33	37	41	147
	女	27	24	24	47	122
感染性胃腸炎	男	193	165	195	253	806
	女	161	167	203	242	773
水痘	男	27	40	51	63	181
	女	21	32	47	50	150
手足口病	男	77	67	64	59	267
	女	63	57	41	44	205
伝染性紅斑	男	16	13	12	7	48
	女	9	10	13	12	44
突発性発疹	男	35	29	31	28	123
	女	38	33	24	33	128
百日咳	男					
	女		1	1	1	3
風疹	男	1		3		4
	女	1	1	3		5
ヘルパンギーナ	男	8	7	11	8	34
	女	8	5	6	9	28
麻疹(成人以外)	男	5	6	2	3	16
	女	2	5	5	3	15
流行性耳下腺炎	男	50	73	79	70	272
	女	54	48	66	55	223
急性出血性結膜炎	男					
	女					
流行性角結膜炎	男	13	13	13	22	61
	女	12	9	8	11	40
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男				1	1
	女					
細菌性髄膜炎	男			1		1
	女					
無菌性髄膜炎	男		1	2		3
	女	1	1	2		4
マイコプラズマ肺炎	男	1		4	1	6
	女		1	1	1	3
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男					
	女					

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

年齢階級別累計表（平成12年46週）

	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
～6ヶ月	1					5	2	2		8							
～1歳	3	1			1	26	7	4		41				1			
1歳	4			1	2	49	15	23	1	11	1		2		1		2
2歳	2			1	5	41	20	13		1			2	3	10		
3歳	1				7	51	15	17	2						20		
4歳				1	11	49	19	21	5				4		20		2
5歳	1				18	46	18	12	1				3		31		
6歳					9	33	8	3	2				1		12		1
7歳			1		11	32	4		1				1	1	14		1
8歳					9	24	2	1	4						2		
9歳					4	16		1	1				1		2		
10～14歳					8	36	1	1	2						6		
15～19歳						14		1						1			1
20～29歳			1	1	3	73	2	4					3		7		5
30～39歳			3														7
40～49歳			1														4
50～59歳			1														5
60～69歳																	3
70～79歳			1														2
80歳以上																	
合計	12	1	8	4	88	495	113	103	19	61	1	0	17	6	125	0	33
先週比	0	1	-6	-6	27	97	15	-2	-6	6	0	-6	0	-1	-20	0	12

注：小児科定点把握対照の疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (平成12年 46週)

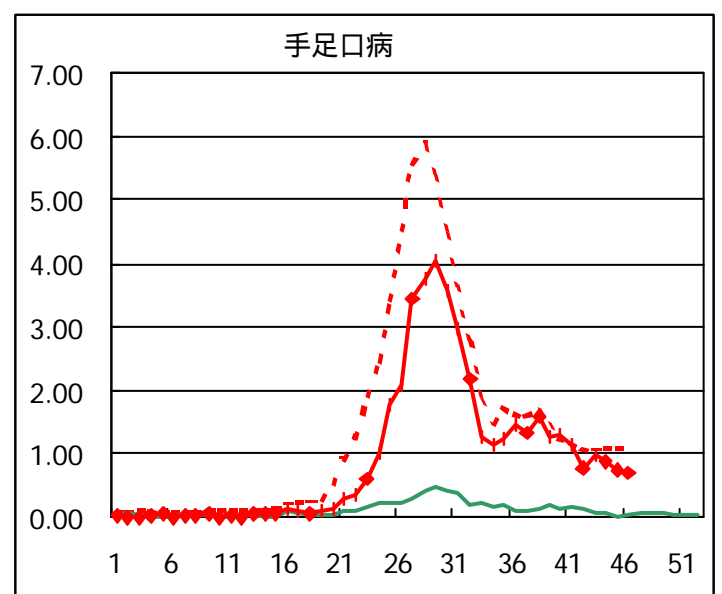
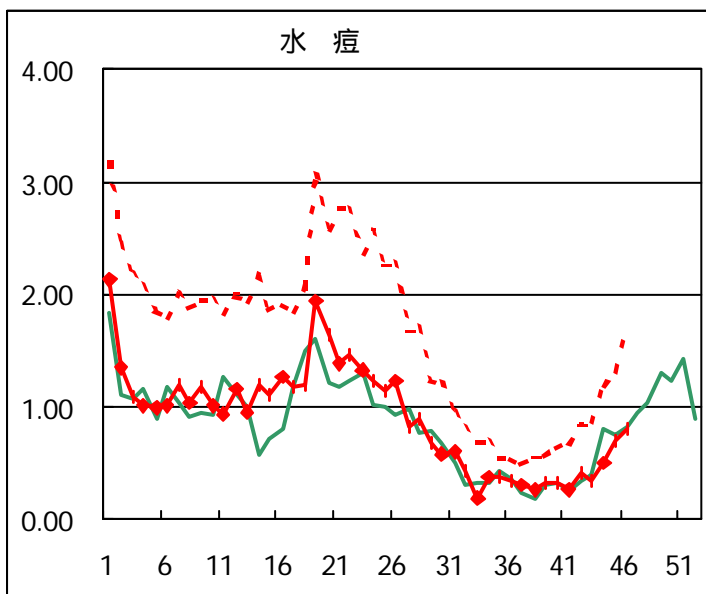
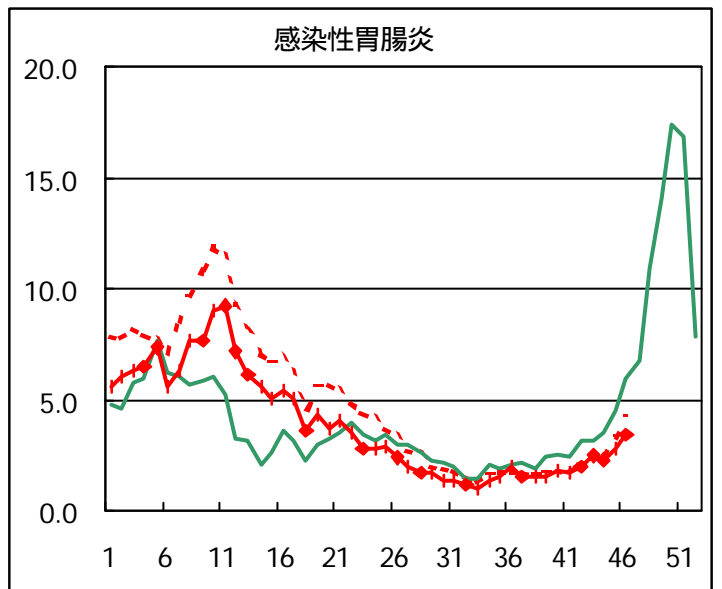
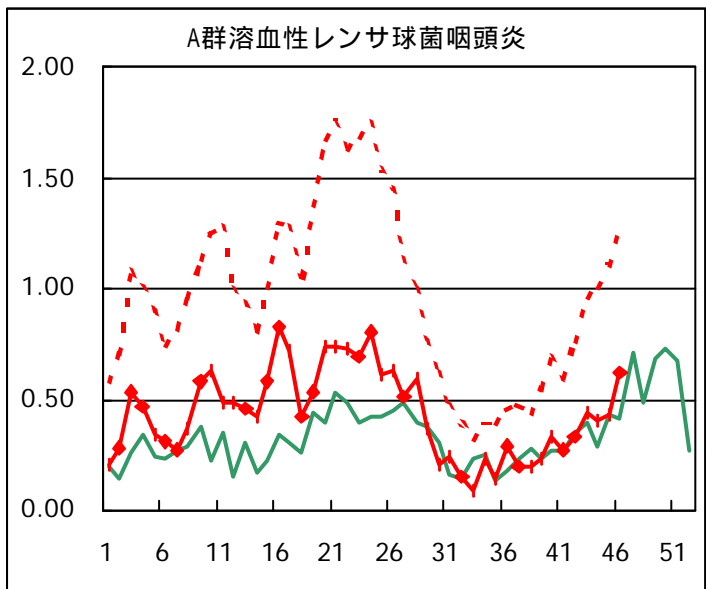
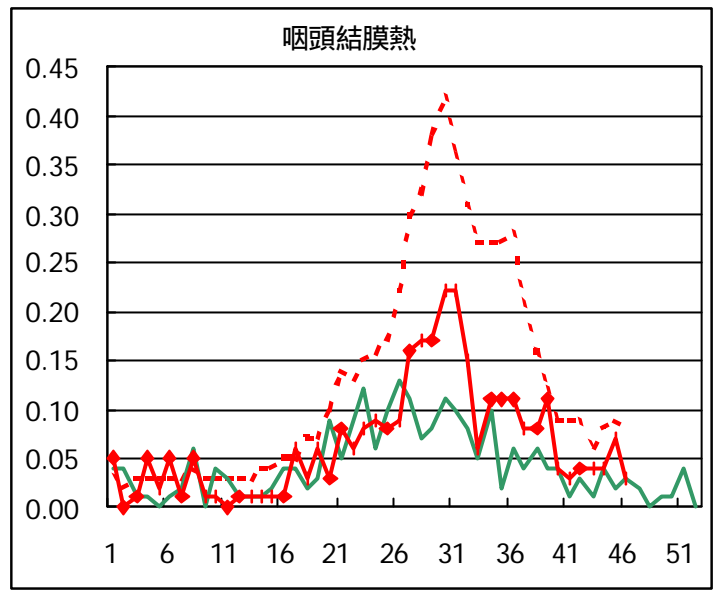
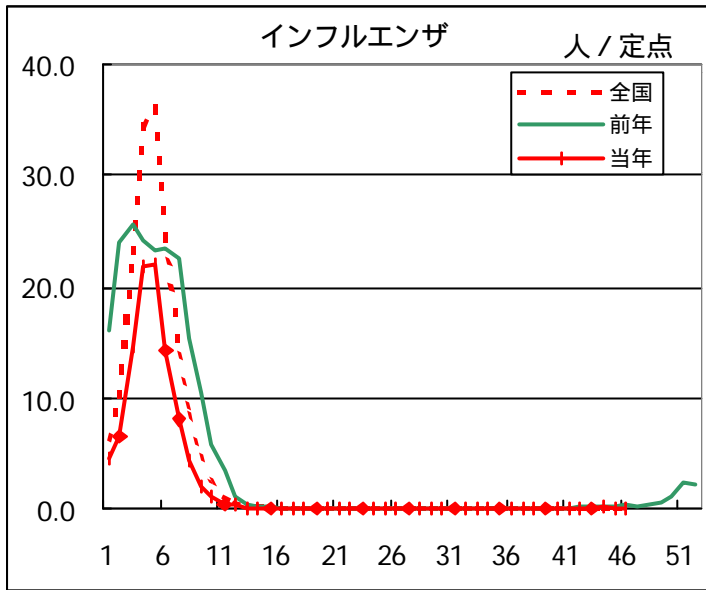
	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	合計
中央	2					2	2	5		2								13
日本橋																		0
文京					3	9	3	1		1					1		6	24
本郷																		0
向島															1			1
本所						4	4			1					2			11
江東区	1				1	11	1								1			15
深川					3	4	5	2		4					2		4	24
世田谷	1			1	12	22	10	13	1	2					12			74
渋谷区					1	19	2								2			24
池袋						2	1			1			2				1	7
長崎						3	11	3										17
荒川						4		1							3		1	9
足立					3	20		6		2					8			39
千住																		0
葛飾					19	8	7		1	1			1					37
江戸川	2					19	1			1			1		1			25
小岩						5									1			6
台東				1	2	15	1	2	1	5			1		12			40
目黒区					1	3	3	3	5	1			1					17
大田区	2		1		1	27	4	13		5	1		1		11		1	67
杉並						11	1		2	1					3			18
北区		1			4	17	3	4	1	6			1		3			40
板橋区					1	4		4		2					7			18
みなと					4	1	3	3	1	1					2		2	17
中野区					1	29	8	6		2				2	2			50
新宿区	1				3	26	4	5		1					7		7	54
品川区			1		3	33		4					2		2			45
千代田																		0
練馬区			4	2	4	21	7	2	2	1					6			49

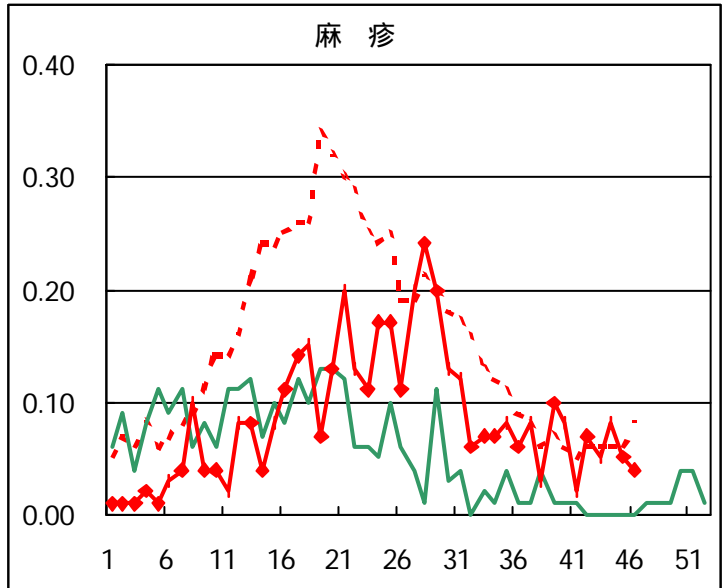
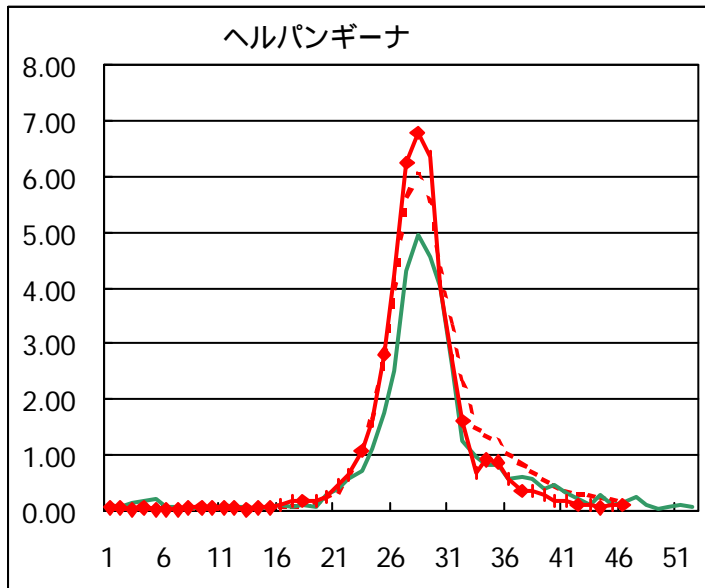
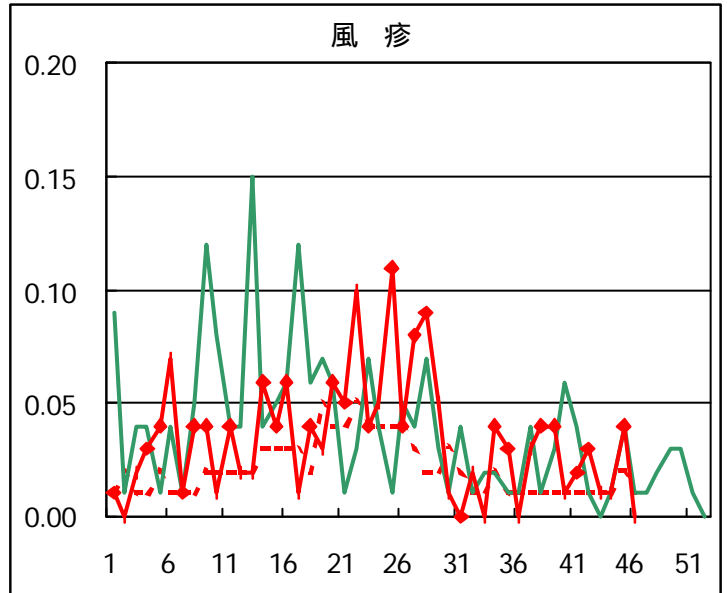
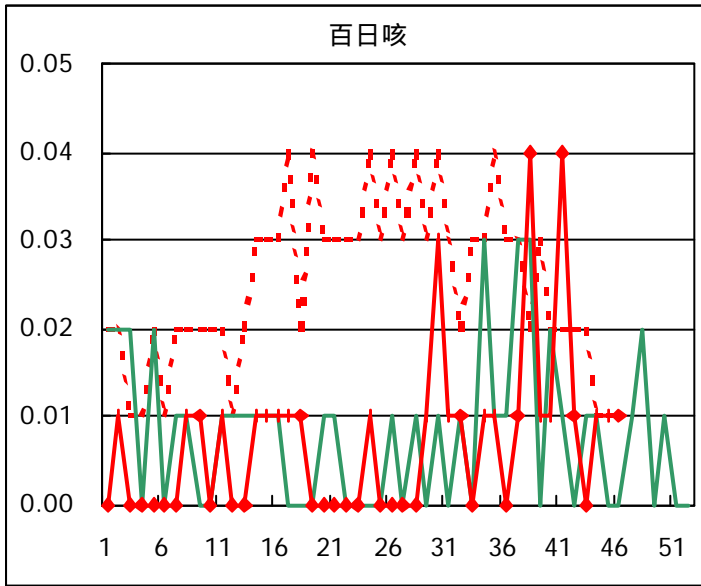
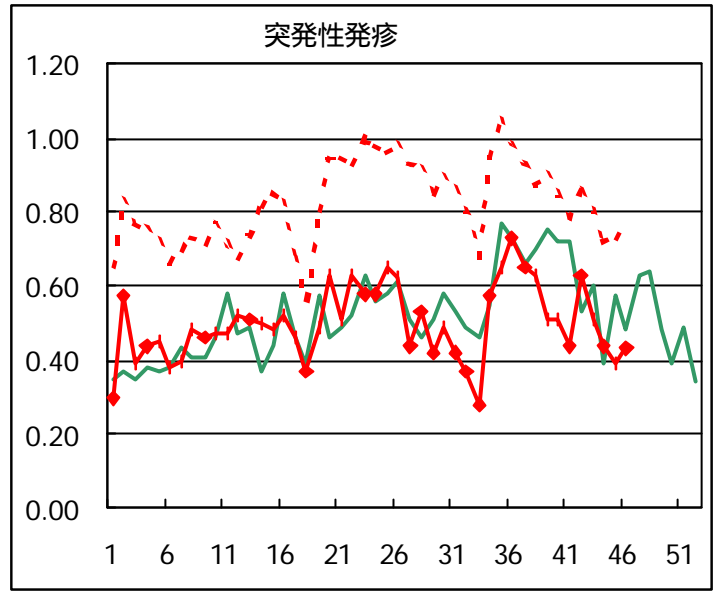
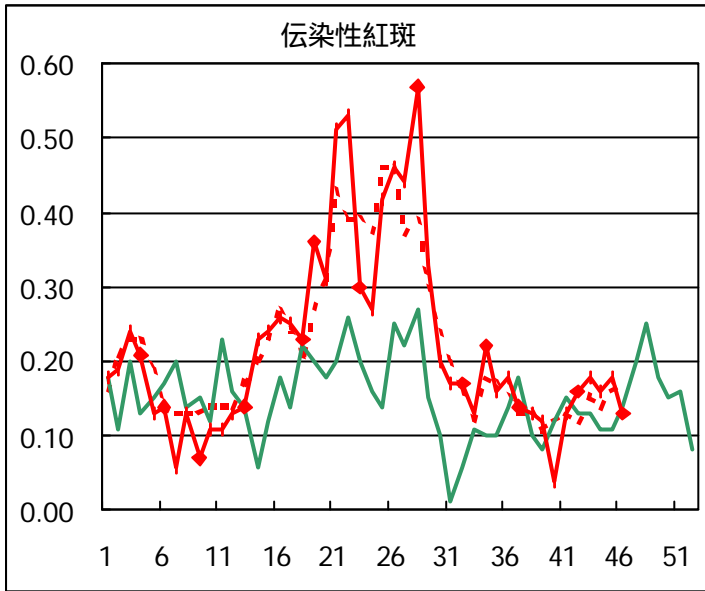
保健所別累計表 (平成12年 46週)

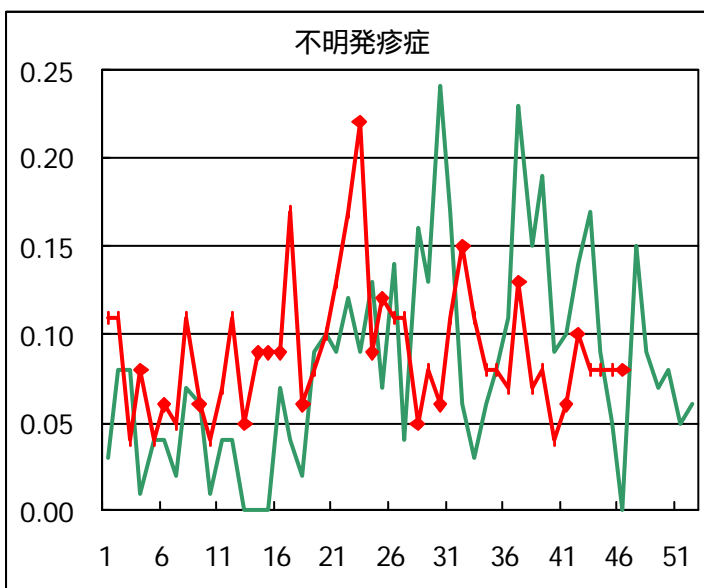
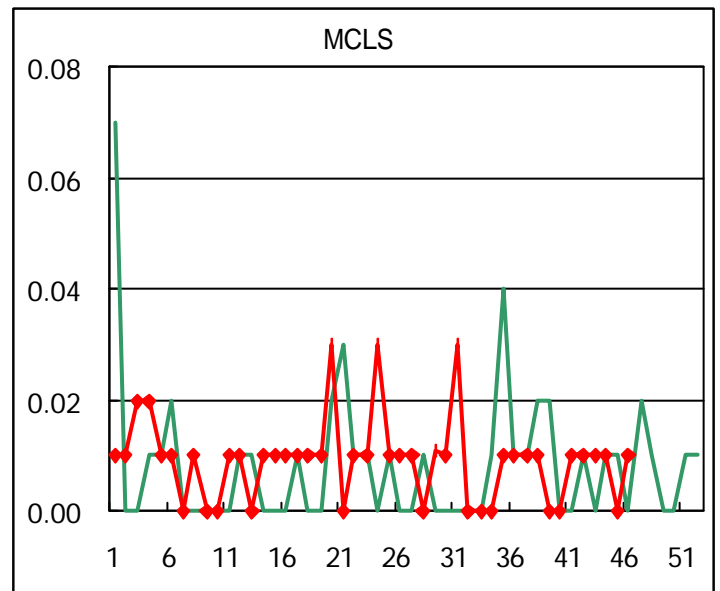
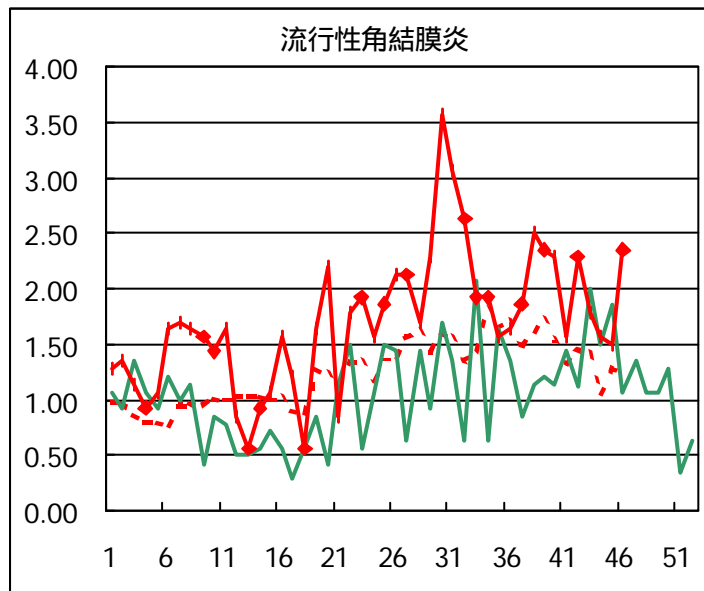
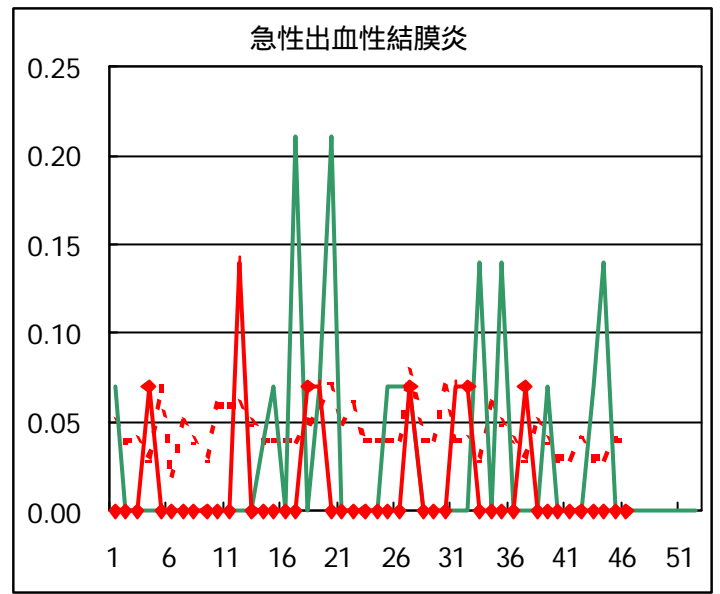
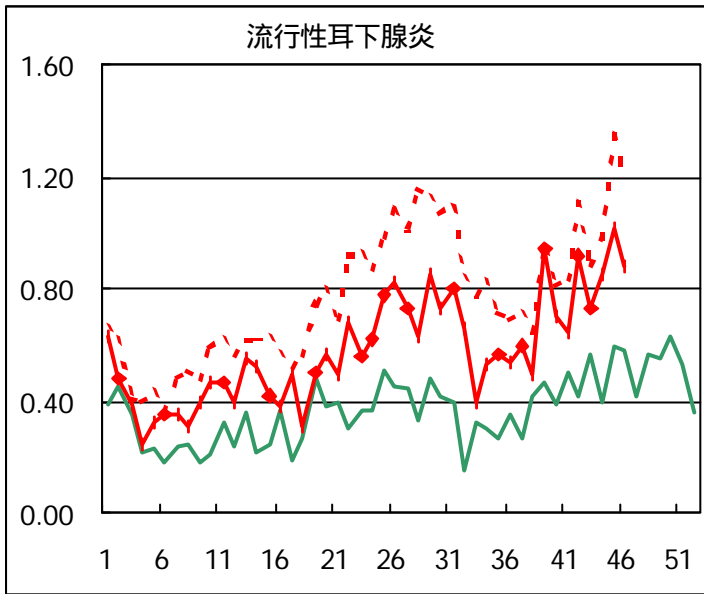
	不明 発疹症	MCLS	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	合計
八王子					1	10	1	3		4					2			21
町田	3				5	29	1	1		3					3		2	47
島しょ							1			1								2
多摩川			1			17	4			3					2			27
秋川					5	21	6			4				1	15			52
南多摩			1		2	26	3	4	3				6		3			48
多摩立川					1	12		2						1	1			17
村山大和						1	4	2						2	4		3	16
府中小金井					1	5	1	1		2					1			11
狛江調布						13	3	4		2			1					23
三鷹武蔵野					2	3									1		6	12
多摩小平					1	24	6	6		2					4			43
多摩東村山					4	15	2	3	2									26

東京都合計	12	1	8	4	88	495	113	103	19	61	1	0	17	6	125	0	33	1086
定点当り報告数	0.08	0.01	0.04	0.03	0.62	3.49	0.80	0.73	0.13	0.43	0.01	0.00	0.12	0.04	0.88	0.00	2.36	7.65

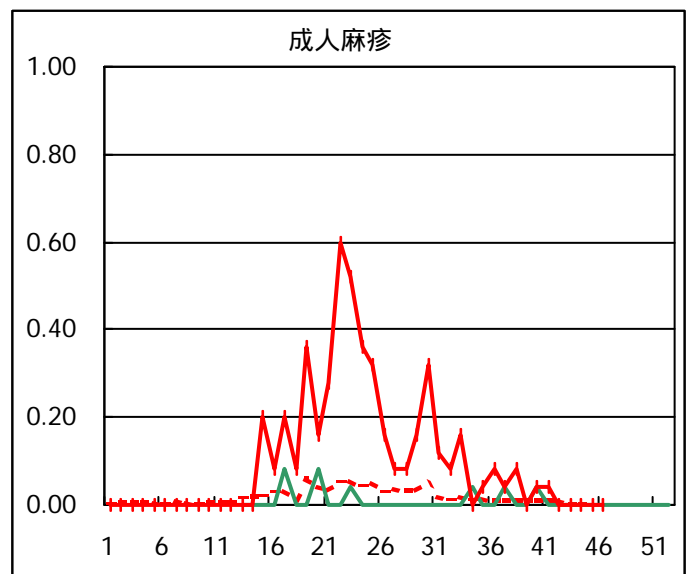
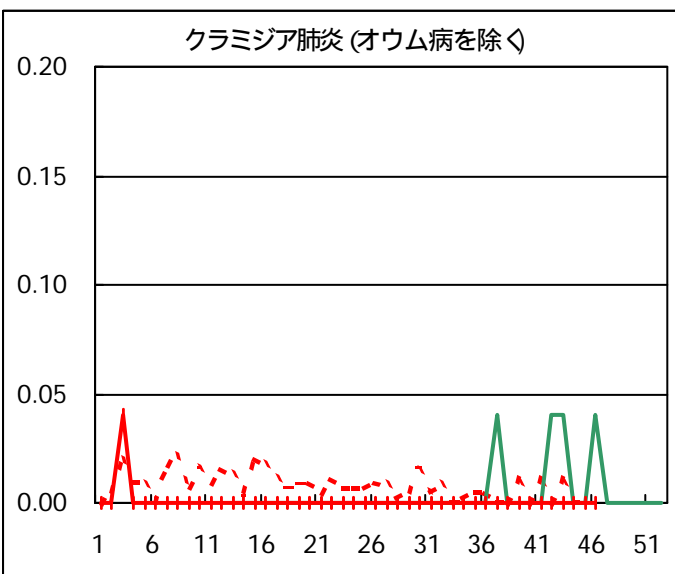
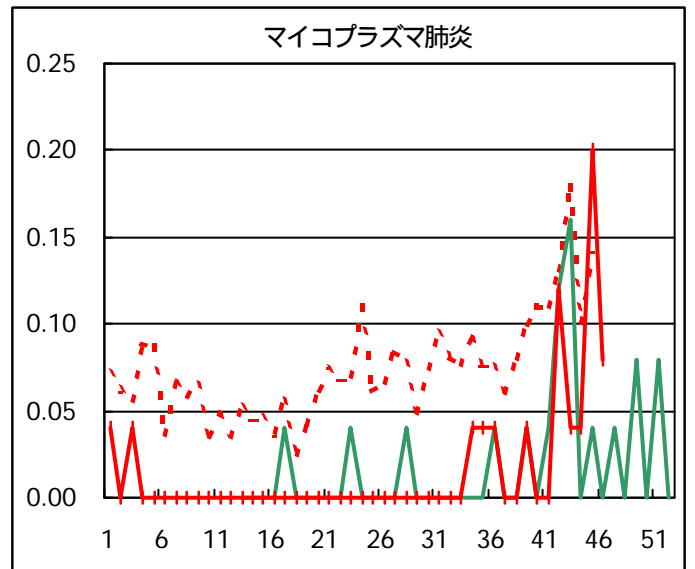
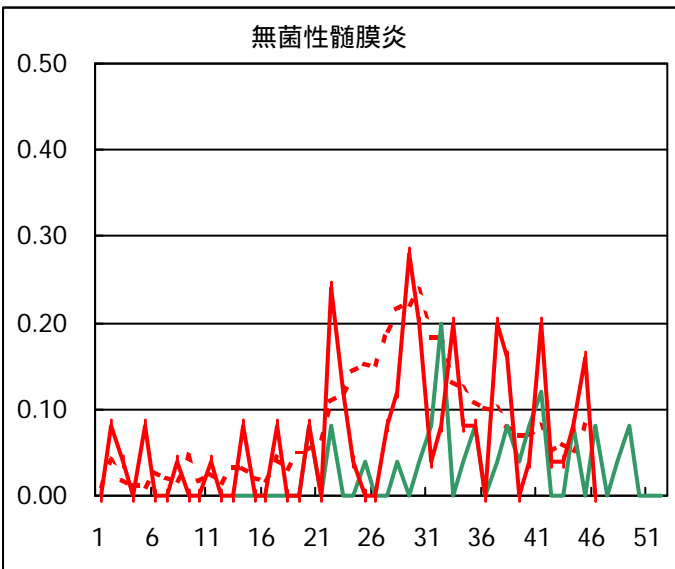
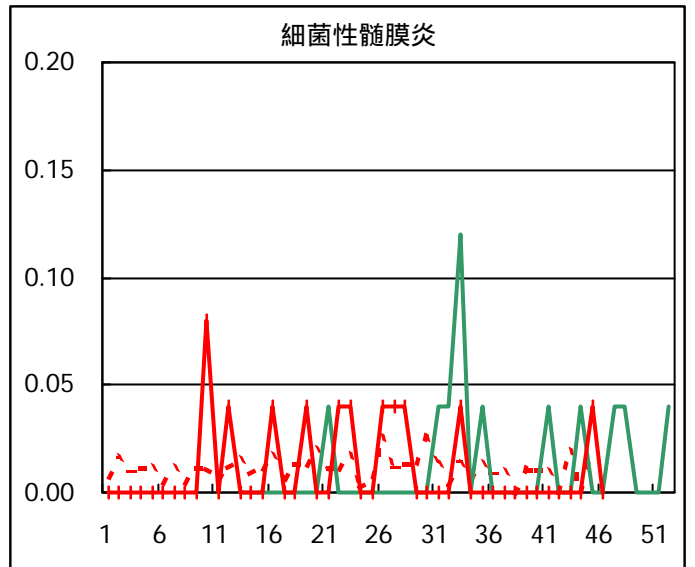
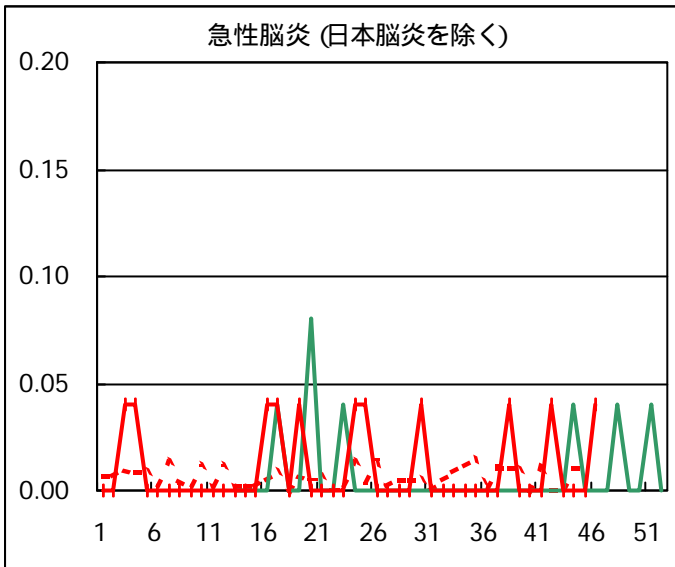
疾病別グラフ







疾病別の定点医療機関数	
疾病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	
上記を除く疾病	



結核治療の進歩

東京都医師会感染症予防検討委員会

薬剤感受性が良好な結核菌の場合、活動性肺結核に対する従来標準化学療法は、INH(イソニアジド)、RFP(リファンピシン)、EB(エタンブトール)またはSM(ストレプトマイシン)3剤併用9ヵ月であったが、最近では、乾酪化部分などの酸性環境の結核菌に有効なPZA(ピラジナマイド)を初期2ヵ月間、3剤に加えて使用し、全体の化療期間を6ヵ月に短縮する方法が好まれている。但し糖尿病やHIV感染などの合併症がある場合は、化療期間を3(ないし6)ヵ月延長する。PZAは重篤な肝障害を起こすので、その出現には一層注意が払われるようになった。

多剤耐性菌の場合、感受性のある薬剤によって幸いに排菌陰性化したら早期に手術適応を検討する。また、最近では高齢者の結核が増えたため、重症合併症(癌や嚥下性肺炎など)を有している者も目立ち、合併症の治療の方が重要な場合が多い。抗結核薬は抗HIV薬、ステロイド剤などの血中濃度を低下させることもよく知られるようになった。

適切な抗結核薬が処方されても患者が内服しなければ意味がない。或るアンケート調査によると、処方された抗結核薬を80%以上内服した患者は約80%であった。内服を確実にするために、DOT(directly observed therapy 対面服薬治療)が推奨されており、WHOの方針に従い、これを導入した国々では目ざましい成果をあげている。この効果で世界の年間結核死(推計)は、1997年の291万人から98年の150万人に激減した。治療脱落者を少なくするため、日本でも今後DOTは増えていくだろう。

(文責:長山直弘)